

The National Road which is stretching toward north-east of Japan has been completed. It will be one of beautiful roads in this country.

新装なれる陸羽街道の一部

東京府第四號國道改修工事

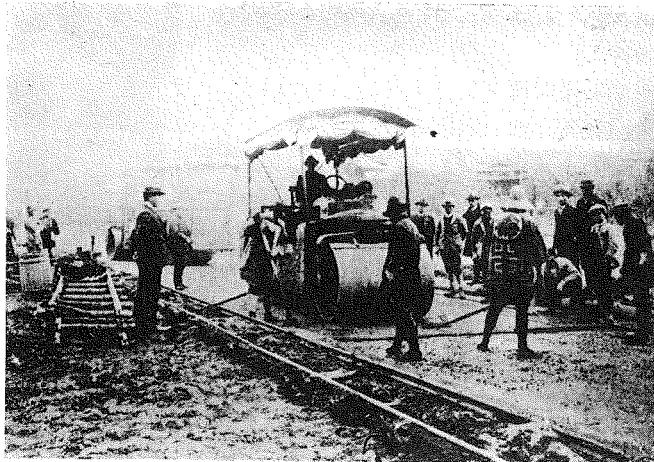
東京府土木部 藤 田 周 造  
技 術 課 長

改修計畫の大要

茲に改修計畫の大要を誌さんとする所は、元新開橋南詰より曩に荒川放水路に架せられたる千住新橋南詰に至る區間にして即ち新開橋南詰を起點とし既設舊路線に對し百參拾度左曲して是れを分岐し約百五十間にして再度同一角度を以て右折し、舊街道を略並行して前進し記念道路（四丁目新道）に交叉し更に千住新橋南詰に到達する舊路線とは全然相離れたる新設路線なり。而して其延長及幅員は

延長	壹千貳拾八間參分四厘
幅員	拾貳間五分
内 譯	
自元新開橋南詰 至熊谷堤	間 貳百貳拾四間五分四厘
有效幅員拾貳間	電車軌道中央三間 車道兩側各二間五分
自熊谷堤 至四丁目新道	間 六百五拾四間一分
有效幅員拾貳間五分	電車軌道中央三間 車道兩側各二間七分五厘
自四丁目新道 至千住新橋南詰	間 百四拾九間七分
有效幅員拾貳間	車道八間 歩道兩側各二間

にして其の道路有效幅員は所に依り不同なるが其の理由は既定千住町下水計畫第一期工事に屬する部分中幹線と稱するもの本路線下を通過するものあり。而して該線の設計は本道流域の汚水及雨水を排出するに十分なるを以



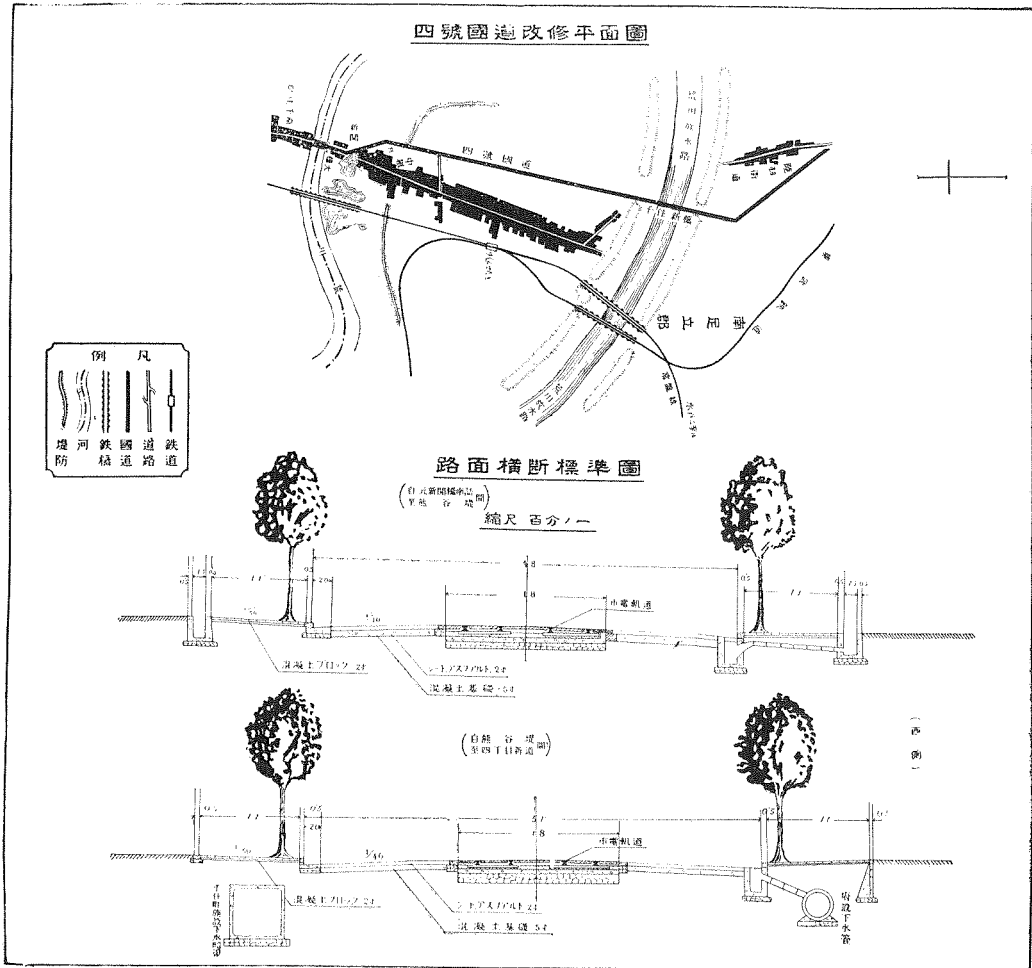
(1) 車道瀝青鋪裝工事にロードローラー使用の實況  
(1) Road roller at work for paving asphalt.

て本道路を以て別に地先下水を設けて之を排出するの必要を認めず只單に沿道兩側民家の片側の屋根に降りたる雨水及道路の降雨を排出すれば足れり故に下水幹線を有する區間即ち熊谷堤より四丁目新道に到る區間

のみは別に地先下水を設置せざる事とし、是に依りて生ずる下水敷地の餘地を車道に包含せしめ軌道敷のために生ずる車道幅員の減少を幾分なりとも緩和せん事に勉めたり、即其結果此の區間は地先下水の設けある他の區間に比し車道に於て貳分五厘即壹尺五寸宛擴むる事を得たるなり。

路面の構造は總て街路構造令の定むる所に依り道路附屬の諸構造物は何れも永久的施設とせり。

道路は街渠を設けて歩車道を區別せる所謂



(2) This road is stretched over 1,000 Japanese Ken. Upper sketch shows the plan. Two lower sketches are drawn for showing how cross-section of this road will be.

(2) 上圖の黒線が四號國道で改修延長一千間餘 下圖は改修道路の横斷面圖

複斷面を有するものなり。起點より四丁目新道に到る區間は其特殊部分を除き車道は瀝青鋪裝とし、其横斷勾配四拾分の壹、歩道は大部分の混凝土ブロック鋪裝及びマグネシヤ、ブロック、アスファルトブロックの鋪裝とし道路内側に向つて五拾分の壹横斷勾配させり又四丁目新道より新橋南詰に至る區間は車道を小鋪石道とし横斷勾配は同じく四拾分の壹にして歩道は亦同じく混凝土ブロック張り外側に向つて五拾分の壹勾配を附したり。

歩道は兩側共約五間の間隔を以て縁石に近く、プラタナス、アカシヤの街路樹を植栽せ

り。

道路の縦斷勾配は概ね貳百分乃至四百分の壹勾配なるも千住新橋取付個所のみは三十二分の壹の勾配させり。

### 工事の施工

本改修工事の計畫は前記の如く大正七年度以降七ヶ年繼續事業として議決されたるものなるも路線の選定も、數回に亘る道路幅員の變更剩さえ事業の中途にして彼の大地震災に遭遇する等幾多の迂餘曲折を経たれば勢ひ工事遅延の已むなきに至れり。而して用地買収並に地上物權移轉は大正十二年に開始し同十四

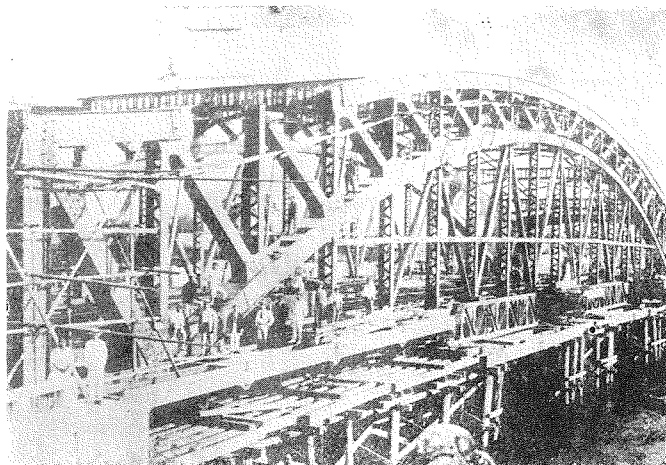
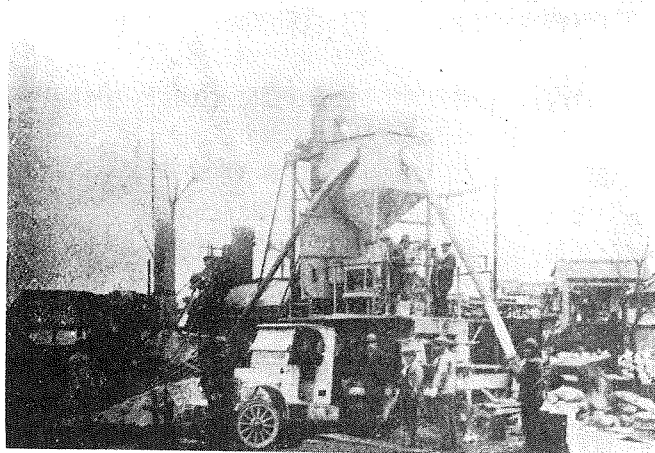
年を以て完了せり。一方工事も是れと相前後して大正十三年九月先づ起點元新開橋南詰より熊谷堤防に至る區間の工事を開始し、爾來銳意工事の進捗を圖り豫期の如く大正十五年度末即昭和貳年參月を以て全部竣功せり。

工事執行の方法は地盤展履鋪裝工事其他重要な工事は全部之を直營し、他の一般諸工事は全部請負工事として施行せり。尙ほ本工事直接施工の爲監督員詰所一ヶ所設置せり。

**一、土工** 本道改修箇所は地勢低濕荒蕪の狀を呈し到底切盛土を平均せしむるが如きは不可能の事なり。加之地質軟弱にして有機不純物の含有多く輾壓及び不純物除去によりて生ずる減土も夥多となり、従つて盛土に要する補足土量も多量を要するの已むを得ざるに到れり。而して木工は前記の如く請負工事を以て施行せり。

起點元新開橋南詰より熊谷堤に至る區域は舊荒川の堤外地にして低濕なりしたため盛土數

- (4) 改修道路鋪裝アスファルト混合機(イロクオイス式 800 平方ヤード)
- (4) Asphalt plant at work.



(3) Erecting tied arches of Ohashi-Bridge which links left and right side portion of this road.  
(3) 改修國道に連絡する大橋のタイドアーチ工事中

尺に及び補足土も二千立坪の多きに達し而して之が補給は木府綾瀬川改修殘土を以て之に充て舟運の便を藉りて運搬せり、又熊谷堤より四丁目新道に到る區間は其延長前工區の約三倍なるも地盤比較的高く従つて之に要せし補足土は前者の約半を以て足れり、而して之が施工も最初請負工事に依り現熊谷堤防上覆土を切り取り運搬する筈の處供水位の關係上是

を中止し内務省施行荒川放水水路洪水敷殘餘土砂の供給を受け運搬せるものにして即ち此の區間の盛土工は直轄施行せしなり。

然れども前記盛土工は地盤輾壓を相伴ひて行ひたるものにして即ち眞土壹尺以内に蒔出したる土を最初八噸タンデム、ローラーを以て輾壓し、更に十噸乃至十二噸マカダムローラーを以て輾壓を行ひ毎層之を反覆して以て所定の高さ迄築上げたるなり。

**二、路盤** 如斯して盛土完了後自然沈下の期間を以て數箇月を経過したる後更に十噸

乃至十二噸マカダム、ローラーを以て充分路盤を締め付け毫も沈下の餘地無き程度に至らしめたり。

**三、車道基礎混泥土工** 本改修計畫の當初基礎工は地盤の低き關係上、排水其他に不備の點多きを考慮し厚さ一尺の割栗石を施す豫定なりしも、本國道改修及び最近竣成せる千住町下水計畫第一期工事完成の結果排水に良好なる影響を及ぼしたるため豫期に反する良好なる路盤を得たれば設計變更して割栗石工を廢し路盤輾壓後直接厚さ五寸のボートランド、セメント混泥土を施工し工費上大に節約するを得たり。斯くして基礎工は全部一三六混泥土を以て施し、瀝青鋪裝箇所及び小鋪石鋪設箇所を五寸厚さとし本改修國道起點分岐箇所熊谷堤防及太師道交叉點の鋪石道箇所基礎は七寸の厚さとし、而して之に要せし材料中洗砂利は主に玉川産洗砂は荒川産を用ひたり、又混泥土混合機レックス型(七切練)二臺及び手練を併せ用ひたり。

**四、車道鋪裝工** 四丁目新道より新橋に到る間及び前記特殊の交叉點を除き車道は全部厚さ二寸のシートアスファルトを以て鋪裝せり、而して本工事のためキロクオイス式(八百平方碼)アスファルト、ミキシング、プラントを以て作業せり。此の他本工事に使用せる主なる機械はバファロー、及オースチンの各八噸タンデムローラー二臺及び運搬自動車(積載量二噸)二臺なり。

使用材料としては前記トリングット、レーキ、アスファルトの他西多摩郡淺川産安小岩碎石、多摩川産洗砂及び寒水石粉を主なるものとする。

四丁目新道より千住新橋南詰に到る區間は參拾分の壹に近き急坂箇所ある關係上全部之をクライン、プラスター鋪裝とし、即ち基礎混泥土上一寸の敷モルタルを施し三寸立方の花崗岩小鋪石を以て鋪設せり。

又前記特殊箇所交叉點は基礎混泥土上同じく一寸の敷モルタルを施し、花崗石塊を以て

鋪裝し特に堅牢なるを旨とせり。

**五、歩道鋪裝工** 歩道鋪裝工事は大部分混泥土ブロックを使用せし一部試験的に大浦式マグネシヤ、ブロック及び金剛アスファルト、ブロックをも使用せり、混泥土ブロックは厚さ二寸にして輾壓された路盤上に厚さ一寸の砂褥層を施し此の上にブロックを規定の通りに敷設するものなり、マグネシヤ、ブロックも亦其鋪設法は全く混泥土ブロックと同一にして只其厚さ一寸五分なるを異なる點とす、アスファルト、ブロックは厚さ三十八耗を有し路盤上三寸の基礎混泥土を施し、更に厚さ四分内外の敷モルタル上に敷設せるものなり。

**六、道路附屬物工** 道路附屬物工としては本道兩側に設けたる擁壁、側溝、街渠、雨水樹、街路樹根圍、下水函型暗渠、排水混泥土管及び人孔を其主なるものとするなり何れも混泥土石材、或は鐵筋混泥土の永久的構造物として施設せり。

**七、地下埋設物** 地下埋設物としては千住町施設下水函型大暗渠を初めとし府施設のものには、熊谷堤より四丁目新道に到る區間西側歩道下に前記鐵筋混泥土排水管在りて人孔の設けある箇所にて本道を横斷して上記千住町函型暗渠に導入せらるゝなり、猶ほ起點熊谷堤間二箇所にて、本道横斷水路のため前記函型鐵筋混泥土暗渠を埋設せり。猶ほ其他西側車道下を遞信局、東京電燈の電纜の埋設あり、又歩道下には日本無線電信會社電纜、江戸川上水管、東京瓦斯會社埋設管あるも之等私設會社の埋設は會社自身に於て施し之が監督を本府にてなせり。

## 工 費

總工費 壹百萬貳千百貳拾圓

内 譯

五拾萬壹千六拾圓	國庫補助
貳拾七萬四千四百參拾參圓	府負擔
貳拾貳萬六千六百貳拾七圓	市負擔
(完)	